

第20回地域環境委員会（書面審議結果）

資料4

委員ご意見に対する回答

項目	委員意見	J & T 環境の回答
1. 微量PCB汚染絶縁油の処理状況	令和3年度、微量PCB汚染絶縁油の処理計画の中で令和2年度（実績）は3,747（トン）でしたが、令和2年度（計画）を教えてください。	令和2年度（計画）の東京電力パワーグリッド様の計画量は3,900トンでした。ほぼ計画通りの処理実績となっております。
	発注者からの受注量の減少に伴う令和3年7月末の契約更改で8月以降の処理量が当初計画の40%程度まで減少したことによる事業費の収支がどのように変化しているのかを問う。	微量PCBの受注量減分については、主要品目である産業廃棄物や医療廃棄物の受注増で補うなど、経営に問題が生じないよう対処しております。
	契約更改による経営への影響を懸念する。	
2. 環境モニタリング状況	ダイオキシン類の排水中濃度が基準の1/2になったことへの説明があった方がよい。	排水中のダイオキシン類濃度が、令和2年12月に4.8pg-TEQ/l、令和3年6月に3.0pg-TEQ/lと基準値10pg-TEQ/lの約1/2～1/3まで上昇しました。排水処理の凝集沈殿工程で生じたダイオキシン類を含む汚泥が放流槽（処理済み排水を貯水する槽）に混入したことが原因と判明したため、放流槽に混入した汚泥をバキューム洗浄で除去しました。以降は通常値に戻っています。
	敷地境界大気（PCB、ダイオキシン類）の表の中で0.2pg-TEQ/m3以上の値は赤線で囲われていますが、この0.2pg-TEQ/m3はどのような値なのでしょう。	0.2pg-TEQ/m3は公的に定められているような基準ではありません。敷地境界測定結果が低い濃度で安定してきていることを示す一つの目安として使用しました。
	近年、問題なく管理されているように思います。経年劣化する箇所など、問題の箇所ほどメンテナンスの回数を増やすなど、リスクベースメンテナンスの観点から、引き続きよろしく願いいたします。	皆様に安心して頂けるよう、今後も管理を徹底して参ります。
	適切な設備の更新などで的確に処理され、安定していると確認した。	
3. 安全対策（教育・訓練・災害事例・設備不具合）	協力会社の人材は変化する可能性もあるが、教育訓練の頻度は年1回で良いか。	協力会社の方向けの研修については、新規入所時に教育を実施している他、安全週間や安全月間行事に合わせて実施したり、災害事例に係る教育などを随時実施しています。
	ヒヤリハット活動は行っているのでしょうか？	日常作業の中で生じたヒヤリハット事例については、報告してもらい、共有することとしております。
	労働安全衛生法に基づく安全衛生委員会は実施されているのでしょうか。	毎月1回、安全衛生委員会を開催しています。
	現在のような新型コロナウイルスの感染が続く中、規定の緊急時対応がマニュアルどおりに実行できるのかを問う。	工場の運転を担当する当直員が万一の際の緊急時対応を行うこととなりますが、体調不良者が出て出勤できない場合でも、他の班からの代勤や日勤者からの人員補充を行うことで、定員を確保しておりますので、緊急時対応においても対応できます。
	p.20の棒グラフ「産業廃棄物焼却炉のトラブルによる設備停止回数」は誤解が生じるため、集計期間あたりの件数で表示したほうが、傾向が分かりやすいように思います。	ご指摘のとおり、それぞれ集計期間が異なります。特にコロナ禍で委員会の開催ができていない今回は、1年8ヶ月と長期間の合計値となっており、他の期間はおおむね6ヶ月程度でありますので、単純に期間内の回数で比較すると大幅にトラブル件数が増加したように見えてしまいます。今後の委員会報告の際は、誤解を招かないよう、集計期間をも考慮した表記と致します。
	適切に行われていることを確認。	拝承
	引き続き、安全対策を心がけていただきたい。	拝承
4. その他	第19回の議事録には産業廃棄物の量は大幅に減っているとのことでしたが、令和3年度はどのような状況でしょうか？	令和3年度においては、コロナ禍の中でも入荷は堅調です。
	先日の見学の際に、市民の方々が地震や津波のことを不安視されているように感じました。既に、様々な安全への配慮がなされていますが、現在想定されている以上の大規模地震、津波などが生じた際に何が起るのか、思考実験をしていただき、フェイルセーフの観点から対策できているかの確認や、必要に応じた対策に努めていただければと思います。	平成24年4月に東京都より公表された「首都直下型地震等による東京の被害想定」において江東区内の最大震度は、震度7（江東区内の0.5%の区域）とされています。弊社のPCB設備は水平震度980gal（震度7の400gal程度の2倍以上）で構造計算されております。また、同被害想定によれば、江東区内の最大津波高さは、T.P.+2.55mとされており、当工場はそれよりも高いT.P.+6m以上に立地しております。このため、地震・津波による大きな被害は生じないものと考えております。 なお、今後も、国や都から新たな被害想定が公表された際にはその内容を十分に検証し、必要な対応を行います。